



News Letter

No.53

一般社団法人日本老年歯科医学会 会報

2023年9月30日発行

【本号のトピックス】

ECG 2023報告／第35回学術大会のご案内／第29回摂食嚥下リハ学会報告
専門医・摂食機能療法専門歯科医師活動レポート／会員受賞報告
委員会だより(研修・認定制度)／オンラインLive研修会報告／支部だより

Annual Congress of European College of Gerodontology 2023参加報告

渉外委員会委員 多田紗弥夏
(シンガポール国立大学)

第33回目となるヨーロッパ老年歯科医学会学術大会が、2023年9月14、15日に開催されました(Prof. Inger Wårdh 大会長 / スウェーデン・カロリンスカ医科大学・老年歯科学教室主催)。“The role of oral health in successful aging”というテーマの下、世界20カ国から100名を超える参加者が集い、歯科衛生士や医師も交えてサクセスフル・エイジングに貢献するための歯科の役割を議論されていました。今年はようやくパンデミック緊急事態宣言が解除され、待ちに待った現地開催が可能になり、再会とまた新しい出会いにと笑顔が絶えない和やかな雰囲気に包まれた会場でした。開催地のストックホルムも北欧らしい美しい街で、少し肌寒い透き通った空気を感じながら歩くのは、とても気持ちよく感じました。

日本から、古屋純一教授(昭和大)が「Home-Visit Dentistry for Oral Health and Dysphagia of older adults in Japan」と、菅野亜紀教授(東京歯科短大)が「The role of dental hygienists in geriatric dentistry in Japan」と題した招待講演をされました。高齢化の最前線をゆく日本での歯科の取り組みは注目度が高く、たくさんの質問やコメントが寄せられました。総計29名が日本から参加しましたが、若い世代の研究者も活躍し、世界中の仲間と楽しそうに親睦を深めている姿が印象的でした。JSG・ECGの交流協定が締結されてから6年が経ち、このようなオープンな学術交流の場へと発展してきたことを心から嬉しく思います。この場をお借りして、ご尽力いただいた先生方に心から感謝を申し上げます。次回のECG Congressはセルビア(ベ

オグラード)にて2024年6月6、7日に現地開催の予定です、ECGへ参加されたことがない先生方もぜひ来年こそ奮ってご参加ください！



古屋先生、菅野先生の招待講演の様子

ECG



第35回学術大会のご案内 #JSG24 人生100年時代を切り拓く～口腔の健康を通して～

大会長 山崎 裕
(北海道大学大学院歯学研究院口腔健康科学分野高齢者歯科学教室)

一般社団法人日本老年歯科医学会第35回学術大会を下記の要領で開催いたします。大会テーマは、「人生100年時代を切り拓く～口腔の健康を通して～」とさせていただきます。今回の学会はコロナ明け初めての単独開催ですので、これまでのうっ憤を晴らすべく、会場もたくさん確保し、盛りだくさんの企画を準備しております。また、6月の札幌は爽やかな気候で、さまざまな花々がいっせいに咲き誇り、北海道の美味しい食べ物も出る季節です。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

会 期：2024年6月28日(金)、29日(土)、
30日(日)
会 場：札幌コンベンションセンター
〒003-0006
札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1
内 容：特別講演、シンポジウム、課題口演、
一般演題(口演・ポスター)など企画多数



第29回日本摂食嚥下リハビリテーション学会 学術大会参加報告

中川量晴, 戸原 玄
(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食嚥下リハビリテーション学分野)

パシフィコ横浜ノースにて9月2日、3日に第29回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会が「摂食嚥下リハビリテーションと多様性」をテーマに開催されました(芳賀信彦大会長, 国立障害者リハビリテーションセンター, 東京大学)。この学術大会は摂食嚥下にかかわる多職種が7,098名参加登録し、本会員も多数参加されました。私は今回で学術大会18回目の参加になりました。海外招待講演ではChulalongkorn Universityの歯科医師Orapin Komin先生をお招きし、Orapin先生にタイ-日本の交流と嚥下診療での歯科の役割についてお話をいただきました。高齢化が進むアジア諸国との学術的な連携強化, 若い人材の国際交流を通じた育成について活発なディスカッションがなされました。



海外招待講演後,
Orapin先生と座長,
演者にて

専門医活動レポート

森崎重規先生

(大分県・医療法人 鶴岡クリニック 歯科・口腔外科)

<病院と生活をつなげる「退院ノート」の普及>

当院は、午前に外来診療、午後に歯科訪問診療を行っています。また、週1回近隣病院のNSTに参加しています。現在、私は大分県歯科医師会の地域福祉委員会を担当しております。そこで昨年度より新たな連携事業を開始しましたので、ご紹介します。地域医療介護総合確保基金を利用し、大分 NST 研究会、大分県歯科衛生士会、大分県言語聴覚士協会の協力の下、病院 NST から介護現場へ連携をつなげる「退院ノート」を完成させました。この退院ノートは、病院 NST で管理された栄養・口腔・嚥下の患者情報が、介護現場での介護報酬として反映する形で連携できるような工夫がなされています。これを第 38 回 JSPEN 学術集会の NST フォーラムで紹介したところ、県外も含め多くの施設から退院ノートの送付依頼をいただきました。3 年間の継続事業であるため、研修会を通し、県内での退院ノートの普及を進めております。機会があれば、今後、本事業の展開をご報告して参ります。



退院ノートと研修会での解説の様子

柳澤光一郎先生

(群馬県・スマイルきっずデンタルケア新前橋歯科医院)

私の医院に来院する高齢者や歯科訪問診療において、口腔機能低下が疑われる場合があります。現在、コロナの緩和に伴い、人と接する機会が増え、話すことも増えました。高齢者の口腔機能を診るにあたり、私は計測機器を使用しています。機器の使用により、確実な診断と患者への視覚的な説明が行え、理解が得られやすいことで口腔機能の改善へとつながっています。また同時に全身の健康にも貢献していると思っています。

私の専門医としての心がけとして、患者の高齢化比率が 30% に近づいており、基礎疾患をはじめ、フレイル、ロコモティブ症候群や認知症、低栄養などが増えている

現在、高齢者の診療に対する知識や情報を整理し、積極的にいろいろな場に参加し、多職種協働を行い、多くの高齢者治療を実践し、技能を高めていくことで経験豊富な専門医になれると考えています。これから先も、老年歯科専門医として研鑽を積んでいきたいと思います。



歯科訪問診療中の様子

加藤喜久先生

(熊本県・熊本きずな歯科医院 / 阿蘇きずな歯科医院)

当院は、熊本県内に位置する熊本市と阿蘇市に拠点を置き、主に在宅および施設の高齢者や中途障害者、発達障害者に対する歯科訪問診療を専門として提供しています。特に、阿蘇の医院では、医療資源が限られている「へき地」と呼ばれる地域にも、歯科訪問診療の範囲を広げ、地域の医療ニーズに応えています。専門医および摂食機能療法専門歯科医師を取得してからは、在宅での VE を行ったり、病棟の患者の嚥下に関する相談依頼に対応したりと、地域の医療に貢献できるよう努力しています。熊本の医院では ST が在籍し、より高品質な医療を提供できる体制を整えることを目指しています。

専門医の資格を取得するまでの学びは自己成長にとって非常に有益でしたが、その過程で数多くの症例に携わらせていただいた研修先の病院や、指導していただいた先生方とのつながりもたいへん貴重な財産になりました。そして、そのつながりも地域連携に寄与していると実感しながら活動しています。



患者さんのお宅での VE の様子

学会だより

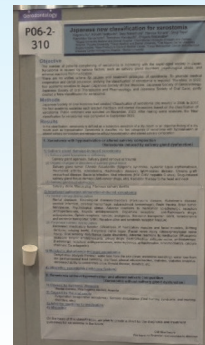
第12回IAGGアジア/オセアニア国際老年学会議(IAGG-AOR 2023)受賞報告

標記国際会議におきまして、本会会員の伊藤加代子先生(新潟大学医歯学総合病院口腔リハビリテーション科)が Outstanding Poster Presentation Award に選ばれました。伊藤先生より下記コメントをお寄せいただいております。おめでとうございます！

2023年6月に横浜で行われたIAGG-AORで、「口腔乾燥症の新分類」に関する発表が Outstanding Poster Presentation Award に選ばれました。作成にあたり、学

術大会やパブコメで、会員皆様からご意見をいただき、検討を重ねることができたおかげと感謝申し上げます。本分類は、老年歯科医学37巻電子版(下記QRコード参照)に掲載されておりますので、ぜひご活用ください。今後は、診断基準や治療ガイドラインを作成する予定です。会員皆様のさらなるご協力をお願い申し上げます。(伊藤加代子)

https://doi.org/10.11259/jsg.37.supplement_20



摂食機能療法専門歯科医師活動レポート

目黒道生先生

(鳥取県・せいきょう歯科クリニック)

私は鳥取医療生活協同組合せいきょう歯科クリニックに勤務しています。日本老年歯科医学会は口腔外科、補綴科、障害者歯科などの先輩方が学際性ある会として発足され、1989年の大会では老人の「口腔衛生」や「歯周疾患を予防」する議論がなされています。

口腔衛生と歯周病の領域を学んでいた私が学際的な本会に入会したのは自然な流れでした。高齢者診療を通じ低栄養や誤嚥性肺炎の予防に関心を抱き摂食嚥下を学ぶ機会を模索していた頃、松尾浩一郎教授からお声がけいただき藤田保健衛生大学(現：藤田医科大学)に勤務する機会を得たのが摂食嚥下領域への橋渡しとなりました。

感染管理中心から生活支援の視点へ変化でき、これら支援の視点がさまざまな課題の気づきにつながり、現在はケアマネジメントの領域の必要性に気づき、職種間連携や事業所間連携といった地域のなかで「橋渡し」する活動にいらっています。

摂食機能療法を学ぶことは、さまざまな領域や人を「橋渡し」し「連携」する重要な転機となったと思います。



患者さんの元へ向かう際の一コマ

加地彰人先生

(愛媛県・医療法人あき歯科医院)

開業した翌年に認定医を取得し、その5年後に専門医、さらにその翌年に念願の摂食機能療法専門歯科医師を取得しました。開業してから歯科訪問診療も積極的に行いながら大学で摂食嚥下リハビリテーションの勉強も並行し、なんとか食支援の方法について形になってきたように思います。現在、外来・歯科訪問診療での食支援、衛生士学校での高齢者歯科の非常勤講師、介護認定審査会委員なども行いながら、地域の食支援や学生の指導などをさせていただいております。

また、2020年4月1日の「摂食嚥下障害診療における耳鼻咽喉科と歯科との連携」に関する提言を受け、わが県でも耳鼻科と歯科の連携事業が本格的に開始され、私もそのお手伝いを依頼され、微力ながら県民のために頑張っています。

また、公認心理師の資格も活かし、今後はターミナル期において要支援者だけでなく支援者も含めた最期まで口から食べるための支援についても積極的に取り組んでいきたいと考えております。



嚥下機能評価を行っている様子

委員会だより

研修委員会

委員長 渡邊 裕

研修委員会は、老年歯科医学にかかわる知識の普及と高齢者歯科医療の質の向上を目的とした研修にかかわる業務を行っています。本年度は地域包括ケア委員会企画のオンライン Live 研修会「ICT を用いた多職種連携（1）自治体規模における取り組み」（2023 年 9 月 8 日開催）と「ICT を用いた多職種連携（2）へき地における取り組み」（2023 年 10 月 6 日開催）を開催いたしました。また、特任委員会（老人保健事業）企画の Web 研修会「口腔衛生管理体制についての計画における施設職員に対する研修会」を開催予定です。また、歯科衛生士関連委員会主催セミナーと第 13 回高齢者医療臨床研修会を開催する予定です。このほか、各種委員会企画の研修会を随時募集しております。本会の研修委員会がサポートする研修会は、すべて会員は参加無料となっています。皆様お誘い合わせのうえご参加のほどお願い申し上げます。



認定制度委員会

委員長 柏崎晴彦

認定制度委員会は、高齢者の歯科医療および健康に関する認定医などの養成ならびに認定を行っています。ご存じのとおり、医科・歯科ともに専門医制度は変革の時期にあります。これまで、学会が認定・運用していた専門医制度を第三者機関（日本歯科専門医機構）が認定する形に整備されることになりました。新しい専門医制度の特徴は広告可能になることです。すでに 6 学会が機構の認証を終了しています。現在、新たに創設される専門領域のうち、当学会は日本有病者歯科医療学会と日本障害者歯科学会と連携して総合歯科専門医（仮称）に移行する形で協議が進められています。したがって、機構による専門医制度の構築に対応できるよう、当学会の認定制度の内容を検討する必要があります。その第一段階として、来年から認定医審査の内容が一部見直される予定です。未確定な部分が多い新制度への移行ですが、国民にわかりやすく国民のためになる専門医制度になるよう、認定制度委員会としても尽力して参りたいと思います。



地域包括ケア委員会主催オンラインLive研修会 開催報告

地域包括ケア委員会委員 若杉葉子

9 月 8 日 19 時半から、異なる自治体規模における地域包括ケアでの ICT 活用についての研修会を開催しました。人口 35,000 人・高齢化率 42% を超える大分県臼杵市と、人口 30 万人・高齢化率 20.2%（独居高齢者や貧困層が多い）の東京都豊島区といった、対照的な 2 つの自治体の取り組みをご紹介いただきました。前者は、「医療介護連携の軌跡とうすき石仏ねっとの活用について」と題して臼杵市医師会立コスモス病院事務長、大分県理学療法士協会地域包括ケア推進委員長の竹村 仁先生から、後者は「ICT を活用した多職種地域連携の実践について」と題して高田歯科医院院長、東京都豊島区歯科医師会会長の高田 靖先生からご講演いただきました。

どちらのシステムも素晴らしく、地域連携が進んでいることがよくわかりました。共通した特徴は、ICT は手段であり、システムづくりの前に地域づくりや顔の見える関係づくりができていたことが ICT システムの成功の基礎にあることでした。

174 名にご参加いただき、質問も多数あり、盛会のな

か終了しました。ご講演いただいた講師の先生、ご参加いただいた会員の皆様ありがとうございました。



竹村先生（上段）、高田先生（下段）の講演の様子

支 部 だ よ り



福岡支部共催 「第19回日本神経摂食嚥下・栄養学会 学術集会 福岡大会」開催報告

福岡支部 梅本丈二
(福岡大学病院摂食嚥下センター)

2023年8月26日、福岡大学病院メディカルホールにて「嚥下障害の予後を見据えた栄養管理を模索する」をテーマに標記学術集会を開催し、歯科医師、歯科衛生士のほか、多職種約200名が参加しました。ランチョンセミナー、シンポジウム、一般演題23題に加え、徳島大学の和泉唯信先生に「ALS患者さんとののかかわり」、国際医療福祉大学の荻野美恵子先生に「最期まで食べたい」をご講演いただき、神経筋疾患の終末期の食について活発な議論を行いました。



多職種によるシンポジウム

「2023年度日本老年歯科医学会 広島支部・広島摂食嚥下栄養研究会 合同セミナー」開催報告

広島支部長 津賀一弘
(広島大学大学院医系科学研究科先端歯科補綴学研究室)

2023年8月31日(木)に標記セミナーを開催し、約70名の方々に参加していただきました。ペレ・クラベ先生(マタ口病院)をお迎えし、「地中海食の3条件:摂食嚥下障害を有する高齢者における最適な大規模介入方法の開発と食事設計」と題してご講演賜りました。トロミ剤の介入研究による医学的エビデンス、AIを活用した大規模摂食嚥下スクリーニングシステムや嚥下調整食の物性統一の取り組みなどに加えて、口腔健康管理の重要性についてもお話しされ、たいへん実りあるセミナーとなりました。



スペインよりペレ・クラベ先生にお越しいただきました

今後の支部セミナーのご案内

岡山支部共催 「病院歯科介護研究会 第25回総会・学術講演会」

日 時: 2023年10月29日(日) 9:30~16:35 (予定)

会 場: 岡山国際交流センター 8階イベントホール

テーマ: 専門職としてのはたらき方と他職種協働

~私たち歯科衛生士が実践する口腔ケアのタスク・シフト/シェア~

主 催: 病院歯科介護研究会

H P: <https://25th.woci.news/>



編集後記

広報委員会ではSNSを活用した情報発信を積極的に行っていますが、コンテンツの質、量ともに医科の学会はわれわれのはるか先を進んでおり、見習うことが多いです。6月に横浜で行われた本会学術大会で受付前に設置した看板の前で記念写真を撮る方を多く拝見しましたが、実はあれも…。(織田展輔)

発行人 水口俊介

編 集 (一社)日本老年歯科医学会広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9
駒込TSビル (一財)口腔保健協会内

電 話 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341

E-mail jsg@kokuhoken.or.jp